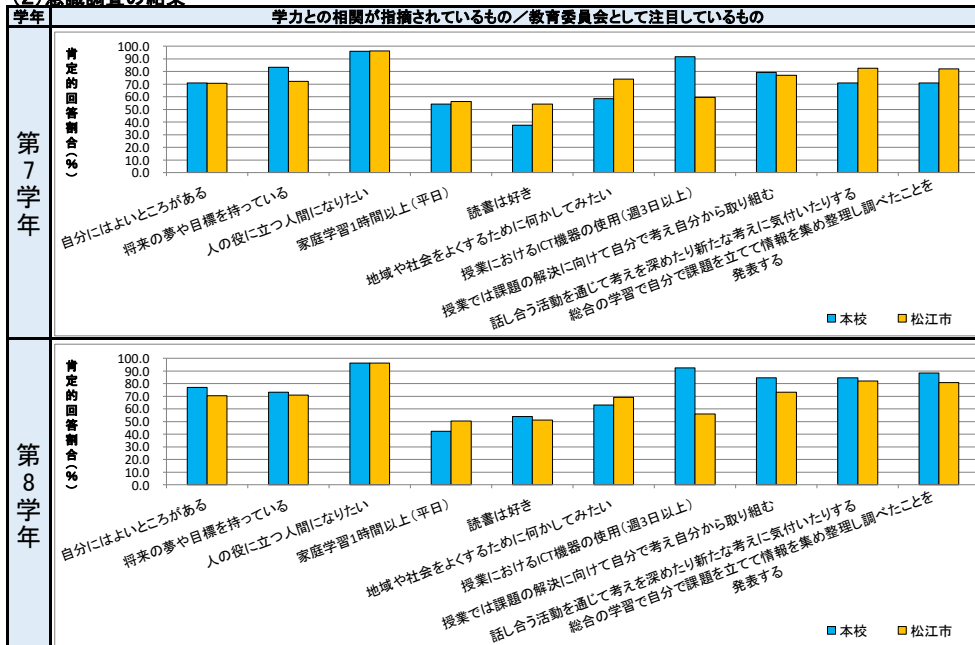


(1)教科調査の結果

学年	教科	分析(成果○/課題●)	改善策(○)
第7学年	国語	成果 ○「話すこと・聞くこと」の領域は、市の正答率を上回っている。授業中に積極的に発言する生徒が多く、人前で話すことに抵抗感がない。	<ul style="list-style-type: none"> ・作文を書く前に、書くことの中心や、文章の構造をまとめる学習を継続して行っていく。 ・論理的な話し方や、まとまった長い文章を話すなど、今より高度な力を付けていく必要がある。 ・継続的なリルやプリント学習を行い、基礎力を付ける必要がある。
		課題 ●「文章を書く力」に課題がある。 ●レベル別人数比を見ると、二極化傾向にある。	
	数学	成果 ○思考・判断・表現の観点と一次方程式の分野は、市町村値よりも高かった。 ○学び合い活動や文章読解に力を入れたことにより、文章を読み取る力や考える力は向上している。特に文章を式に表すことに長けていた。	<ul style="list-style-type: none"> ・理解→実践→振り返り→演習の形を徹底し、まずは基礎基本の定着を図っていく。その中で、適時ペア学習やグループ学習で復習する時間をとり、互いに説明することでより深い理解につながるようにしたい。
		課題 ●全体的に正答率が低い。特に基礎・基本の計算問題の正答率に全国平均と差があった。 ●分野によっては生徒間の理解力の差が大きい。	
	英語	成果 ○松江市の達成率と比較して正答率が上回るのはリスニング3問で「さまざまな英文の聞き取り」3.5ポイント、「内容理解」2.4ポイント、「対話文の応答」1.8ポイント。「語彙の知識・理解」と「長文の読み取り」はともに1ポイント未満の上回り。 ○基礎的な内容の聞き取り練習の成果が表れている。	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く、読む、話す、書く力のすべてに基礎の定着を図る。 ・習熟度に応じた反復練習を地道に続ける。 ・基本文型の定着を図る手立てを工夫する。
		課題 ●教科総合正答率は推定全国値を下回る。松江市の達成率と比較して、正答率は10問中5問が下回る。すべての項目で3.5ポイント以上の差があり、そのうち「単語の並べかえによる英作文」が6.4ポイントで最大の差である。 ●内容の読み取りや英文を書く力に課題がある。	
第8学年	国語	成果 ○総合正答率は、市の正答率を上回った。漢字の小テストやドリル、単元最初の意味調べプリントを継続して行ったことで、基礎的な言葉の力が身に付いたと思われる。 ○200字程度の作文の学習を繰り返し行ったことで、書く力が向上したと考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・正確に読み取る力を培っていくために、グラフや新聞記事の内容を根拠に、自分の考えを作文する活動を取り入れる。
		課題 ●文章を読む力や、資料を読み取る力がやや弱い。文章の構造や資料の意図を正確に読み取る力が必要だと思われる。	
	数学	成果 ○総合正答率は推定全国値と比較して同等だった。 ○基礎的な内容の小テストを繰り返し実施したり、ペアやグループで既習事項を復習する時間を取ったりしたことで、基礎的な学力が付いたと思われる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内でペア学習やグループ学習で復習する時間を取り、互いに説明することで基礎学力の定着を図る。 ・複雑な問題にも対応できるよう、習得の状況に応じ、問題を選んで解くなどの工夫を行う。 ・定着できていない問題を繰り返し練習することで定着を図る。
		課題 ●全体として、複雑な式の計算や難易度が高い文章題に課題がある。 ●繰り返し練習した問題は定着を図ることができるが、演習問題については、練習不足の内容もあり、定着に課題が残る。	
	英語	成果 ○松江市の達成率と比較して正答率は10問中9問が上回る。7問が1ポイント未満の上回り。2問が1ポイント以上の上回りで最大は「単語の並べかえによる英作文」で2.0ポイント、「長文の読み取り」で1.5ポイント。 ○基本文型の定着を意図した反復練習の成果が表れている。	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く、読む、話す、書く力のすべてに基礎の定着を図る。 ・反復練習を地道に続ける。 ・発展的な学習に興味を持てるよう促す教材を工夫する。
		課題 ●教科総合正答率は推定全国値を下回る。松江市の達成率と比較して正答率が下回るのは1問「リスニング(内容理解)」のみで0.6ポイント。 ●対話文やさまざまな英文の聞き取りは松江市の達成率を上回るが、まとまった内容の聞き取りに課題がある。	

(2)意識調査の結果



＜傾向と今後の対策、分析＞

成果○：強み/伸ばしたい点 について
課題●：弱み/改善を要する点 について

【第7学年】

- 学年としてICT機器を活用した授業が多く行われている。
- 将来の夢や目標を持つ生徒が多い。
- 家庭学習を1時間以上する生徒の割合が半数に満たない。
- 対話を通して考えを深めることに課題がある。

【第8学年】

- 授業におけるICT機器の使用率が非常に高い。
- 課題を解決したり話し合ったりする活動に積極的に取り組むことができる。
- 家庭学習が1時間以上の生徒の割合がやや低い。

【R7学力調査受検者数】

第7学年	24	名
第8学年	26	名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示